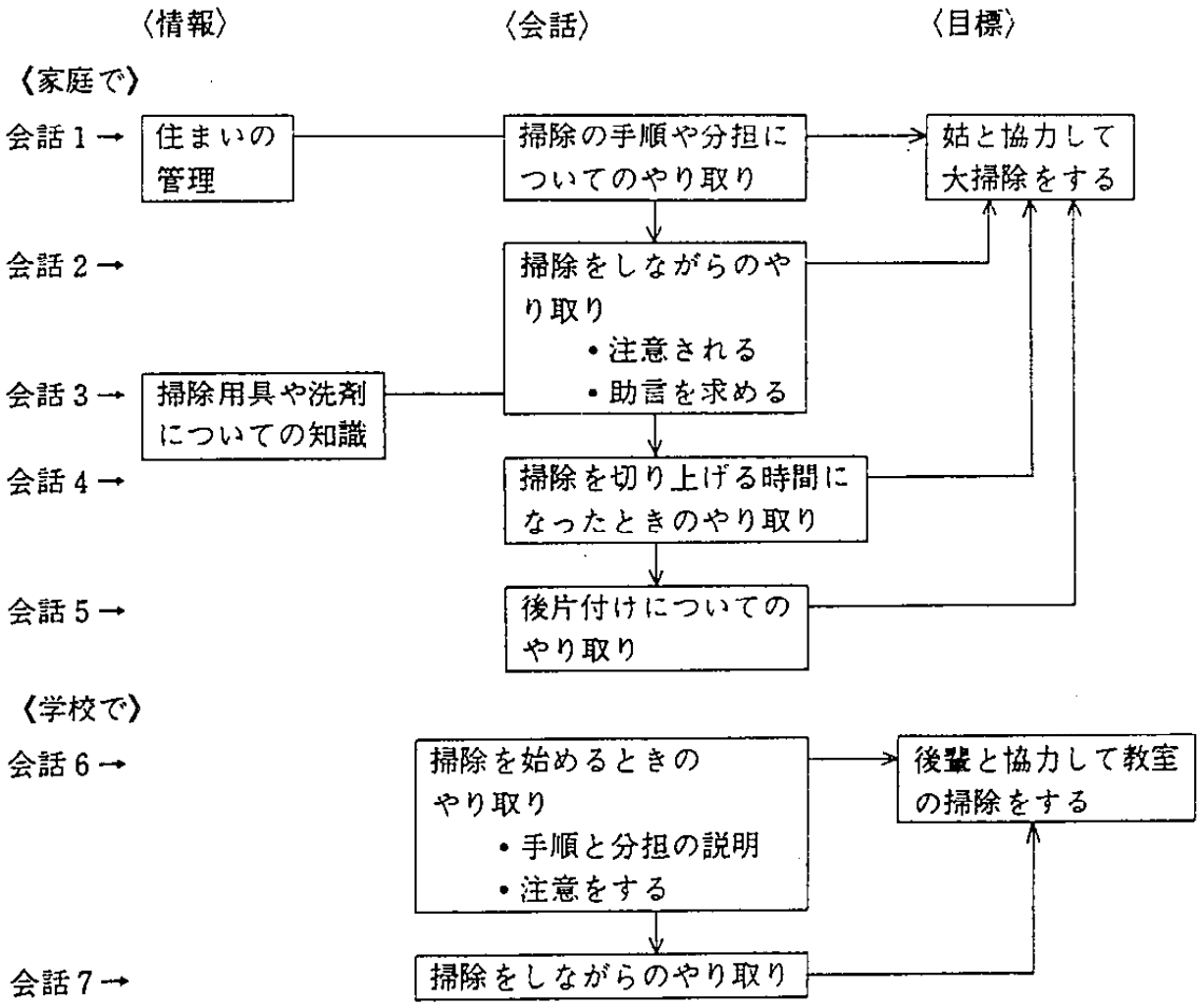
第3課　掃　除

● この課の目標と重点

① 家庭で姑とともに大掃除をするというような会話場面を通して、住まいの管理に対する日本的な生活感覚についての理解を深める。

② 家庭での大掃除や学校や職場での掃除等、人と協力して作業をするときの適切なやり取りができる。

● 課の構成と各会話の関連



〔会話－1〕掃除を始める

行動達成目標	
人と協力して作業をするときのやり取りが適切にできる。(指示を受ける立場の場合)	
知識	日本の家庭における住まいの管理（掃除）に対する考え方について理解し、あわせて、一般的な掃除の仕方を知る。
表現	① 作業の手順や分担を指示されたときにその内容が理解できる。 → （わたし）が（掃除機をかけ）ますから、（秀英さんはふい）てくれますか。
	② 掃除に必要な語彙・表現が理解できる。 → 掃除機をかける／ふく／……
	③ 返事や確認がタイミングよく適切に行える。 → はい。分かりました。（ぞうきんは洗濯機の横）でしたね。

● 指導の前に

① 生活感覚の違い

衣・食・住という人間の生活の基本に結び付いた感覚は、人により、また、それ以上に文化の違いによって大きく異なっている。

- 何を清潔と感じ、何を不潔と感じるか。
- きちんとしている、だらしがないというのは、どういう基準によるのか。

教授者は、こうした点を日本と中国の生活感覚の差違が現れた具体的事例によって説明し、そういう感覚の違いがなぜ生じて来るのか、どういう感じ方・考え方から来るものであるのかを説明できることが望ましい。例えば、よく言われる「日本では床につばを吐いてはいけない」という注意についても、単に、「悪いこと」「汚ないこと」で済まさずに、それが床や畳（つまり靴を脱いで入らなければならない場所）に対する日本人の感覚に基づいていることにまで話を広げて説明したい。

中国帰国者家族と日本人との生活感覚の違いは、大小様々なトラブルにまで発展することがある。そして、それは、日本人側に原因があることも少なくない。生活感覚の違いという、外国人には当然のこととして認められているものが、帰国者家族には認められないことも多い。帰国者には日本社会への同化がより強く求められていると言えよう。帰国者家族とその両親とが同居している場合、性急に日本的生活様式を押し付けてしまうことが多い。これでは問題が起こるのも当然だろう。同じ日本人同士でも、子供が結

婚して二世帯が同居することになったときのことを考えれば、これは容易に想像がつくことである。

② 指導に対する配慮点

第3課では、林夫人がお母さんの指示に従いながら一緒に大掃除をするわけだが、こうした会話が現実に交わされる可能性はそう多くないかもしれない。しかし、教科書の会話練習を通じて日本的な住まいの清掃・管理に対する考え方を認識しておくことには意味があるだろう。帰国者家族が独立して世帯を営んでいる場合でも、日本人の来客がどういう所にどういう印象を持つのかを知っておくことも重要である。

● 準備

① 掃除にかかわる語彙のリスト（中国語訳付き）を用意しておく。
（教科書P 102を参考にする―掃除機をかける・モップをかける・ガラスを磨く・たわしでこする等、ふきん・ぞうきん・スポンジ・金だわし・洗剤等）

② 上記リストをそのままの順序で吹き込んだテープと、順序を変えて吹き込んだもの（掃除機をかけます、掃除機をかけてください等の表現形にしてもよい）を用意しておく。

＊①と②は、授業前に学習者に渡しておき、予習を指示しておく。

③ 家の内部のカット（浴槽、タイルの床、窓ガラス、廊下、食卓、トイレ、流し、畳等掃除のやり方が違う部分を描いたもの）を用意しておく。

④ 掃除用具のカット（ほうき、たわし、スポンジ、洗剤、トイレ用柄付きたわし等）を用意しておく。

● 授業

【1】導入

① 住まいの管理の方法について学習者と話し合う

具体的には、家庭での掃除は、どのくらいの頻度で、どんな所を、どんな用具や洗剤を用いて、どういうやり方で行っているかを学習者に話させ、日本では一般的にどうであるか、それについてどう思うかなどについて話し合う。例えば、ふきん、台ふき、床・家具用のぞうきん、トイレ用のぞうきんの別についてはどうかも尋ねてみたい。学習者が日本的なやり方にほとんど違和感をもっていないようであれば、以後の学習は会話の練習として進めていってよいだろうし、いろいろ注意された経験があったり、疑問に

思うことが多いようであれば、以後の学習は情報的部分に重きを置く必要があろう。

② 掃除にかかわる語彙・表現を理解する

あらかじめ渡しておいた語彙リストの理解と定着を確認する。

例　教授者が作業を指示し、学習者はその作業の場所や用具のカットを選んで指さす。

- タイルを磨いてください。 → 浴室の床のカットを示す。
- モップを取ってください。 → モップのカットを示す。

例　教授者がカットを示し、学習者が作業を表す日本語を言う。

- 窓のカット　→ 窓ガラスを磨きます。
- 食卓のカット → テーブルをふきます。

＊レベルｉの学習者には語彙リストの中の必要最低限のものに限り暗記を指示する。教授者は授業時にも使用語彙を調節する。

【2】展開

① 「～が～ますから、～さんは～してくれませんか」というような作業の分担を指示する表現を理解する

ア　形の練習

二つの作業を学習者ＡとＢが分担することにして、上記の文型に当てはめる練習を行う。

例　先生　：　掃除をします／洗濯します

学生Ａ：　私が掃除しますから、Ｂさんは洗濯してくれませんか。

先生　：　モップをかける／机をふく

学生Ｂ：　私がモップをかけますから、Ｃさんは机をふいてくれませんか。

＊レベルｉの学習者には語彙を学習者がよく知っているものに限る。

イ　場面の練習

教授者が指示を出し、学習者がそれを受ける形でやり取りを行う。

例　先生：　私がモップをかけますから、～さんは机をふいてくれませんか。

学生：　はい。じゃ、机をふきます。

スムーズに言えるようになったら、学習者同士で行う。この文型は、職場でも学校でも、協力して作業を行うときに便利な表現なので、理解だけではなく十分に使いこなせるようにしたい。

＊レベルⅱ、ⅲの学習者にはかなりのスピードを要求する。語彙も広げる。
＊レベルⅲの学習者には、この文型が作業を指示する立場での表現であることを確認しておく。少し改まったときの文型としては、「私が～いたしますので、～の方はお願いできますか」等の表現も取り入れて練習させたい。
＊説明2（教科書P 103）については、レベルⅰ、ⅱの学習者から質問が出なければ触れなくともよい。あくまでも、作業分担の指示という機能に絞って練習させたい。レベルⅲの学習者の場合は、〔会話－1〕が終わった時点で、「から」の使い方のまとめとして取り上げる。

② 〔会話－1〕の場面を確認する

教科書を閉じたままで、〔会話－1〕のテープを聞かせ、内容把握を確かめる質問をする。

例 • ここはどこですか。
• だれとだれが話をしていますか。
• 今日何をするのですか。
• だれが掃除機をかけますか。
• 洗剤はどこにありますか。

③ 記憶の確認の表現「～でしたね」を練習する

ア 教科書を閉じたままで〔会話－1〕のテープをもう一度聞き、会話番号2の部分を書き取らせてみる。そのとき「～でしたね」が過去形をとっていることに十分に注意させる。

イ 正しい文を板書した後、説明3（教科書P 104）と第2課〔会話－8〕の説明12（教科書P93）を参照させ、使い方を確認させる。

ウ 「～は（名詞）です」の文を「～は（名詞）でしたね」の形に直すパターン練習をする。このとき、「明日」「来年」「今」等の語彙を含んだ文や、時制にかかわらない事実を表す文をふんだんに用い、「～でしたね」で確認する内容が「過去」の時間とは無関係であることを理解させる。

例 • テストは明日です。 → テストは明日でしたね。
• ～さんの弟さんは今高校生です。 → ～さんの弟さんは今高校生でしたね。
• まさお君のまさは政治の政です。 → まさお君のまさは政治の政でしたね。
• ぞうきんは洗濯機の横です。 → ぞうきんは洗濯機の横でしたね。
• ほうきはロッカーの中です。 → ほうきはロッカーの中でしたね。

＊レベルⅲの学習者には、名詞文に加えて動詞文の練習も行わせたい。

例　明日テストします。　→ 明日テストするんでしたね。
　　明日テストはありません。　→ 明日テストはないんでしたね。
　　切符は買いました。　→ 切符は買ったんですね。
　　手紙は出しませんでした。　→ 手紙は出さなかったんですね。

＊レベルｉの学習者の場合、「～でしたね」の発話が大変なようであれば、理解だけにとどめ、形の練習を省く。

④　〔会話－１〕を通してのロールプレイをする

教科書を閉じさせる。ポイントとなる言葉を板書して会話の流れが分かるようにしてから、教授者と学習者の間で、十分滑らかに言えるようになるまで練習する。このとき、「はい。／はい。分かりました」等の返事がスムーズに出るようにさせたい。このような場面では気持のよい返事が大切であることを強調しておく。

板書例
- 掃除機　（ふく）
- ぞうきん　洗濯機　横
- 洗剤　流し　下
- ＿＿＿＿＿＿＿＿

＊レベルｉの学習者は「～でしたね」は、「～ですね」となっても一向に構わない。

このあと、学習者同士でロールプレイを行う。「わたしが～ますから、～さんは～てくれませんか」の文型が滑らかに言えるようであれば、作業の内容や用具の置き場所をいろいろに変化させて、応用会話の場面練習に移る。

〔会話－２〕掃除をしながら（１）

行動達成目標		
	注意を受けたときに適切な応対ができる。	
知識	人に注意をするときの表現方法の日本的な特色について理解する。	
表	① 注意を受けたとき、それを理解して適切な応対をすることができる。	→ あ、（そこはまだ掃除機かけていない）んですよ。
	② 作業の進行状態に関するやり取りができる。	→ （そこは）まだ（掃除機かけ）ていないんですよ。

現		今から（かけ）ます。 もう（済みました）？ もう（いいです）よ。

● 指導の前に

日本人は、人に注意しなければならないときにどのような配慮をしているだろうか。注意したことでお互いが気まずくならないように、随分気を使っている日本人が多いのではないだろうか。時と場合にもよるが、直接的な表現を避けた、えん曲的で遠回しな言い方が少なくない。日本の生活習慣になじんでいない外国人の場合には、そうした間接的な言い回しから意をくみ取るのは大変なことに違いない。この課の場面や職場での仕事のような場合にはあまり間接的な表現は使われないかもしれないが、家庭や職場、近所付き合いにおける人間関係では、相手の言いたいことを「察する」ことができないために、トラブルに発展することも多いだろう。

レベルⅲの学習者の場合は、できればここで、注意するときの表現について考える機会を持ちたい。どんな場面でどんな注意を受けたことがあるか、逆に、こちらから注意したことはあるか、そのときはどんな表現を使ったか、注意したいと思ったができなかったというようなことがあったか等について、話し合ってみたい。出てきた場面を例にとって、日本ではそういう場合どういうやり方で注意することが多いか、どういう表現方法がどういう印象を与えるか、強い表現、ソフトな表現についても情報を与えておきたい。

● 準備

① 「もう～」「まだ～」「今から～」の練習に用いる作業計画表（主婦の日課の一覧表、大掃除の作業リスト、パーティーの下準備の手順等）を用意しておく。

例　主婦の日課　（洗濯をする／ふとんを干す／朝食をつくる／食器を洗う／花に水をやる／家の前を掃く等、レベルⅰの学習者用に絵をつけたもの。）

● 授業

【1】展開

① 〔会話－2〕の場面を確認する

教科書を閉じたままで〔会話－2〕のテープを聞かせ、内容把握を確かめる質問をす

る。会話番号１の発話が、どんな状況での発話なのか（林夫人が掃除機をかけていない部分をふこうとしたとき母親がそれを注意しようとしている表現）に気付かせ、また、それぞれの発話が作業の完了・未完了のどちらを意味しているのかを理解することがここでの重点である。

例　〔会話－１〕のテープを聞かせて

- お母さんは何をしていますか。
- 林夫人は何をしていますか。
- 林夫人がふいてから、お母さんが掃除機をかけるのですか。

〔会話－２〕の会話番号２までを聞かせて

- 林夫人は何をしようとしましたか。
- そこは、お母さんがもう掃除機をかけたところですか。

〔会話－２〕を終わりまで聞かせて

- こっちは、お母さんがもう掃除機をかけたところですか。

＊レベルｉの学習者には、日本語部分のみの聞き取りで内容を把握させることは難しいので、中国語訳の部分も聞かせたうえで、改めて日本語部分に戻して質問する。質問内容も作業の完了・未完了の聞き取りだけに絞る。

② 「もう～ましたか」「まだ～ていません」「今から～ます」の練習をする

ア　説明１（教科書Ｐ 100）を参照させ、文型の意味を確認する。

イ　準備した作業計画表を用いて形の練習を行う。

例　主婦の日課表を用いて

先生：　もう洗濯はやりましたか。

学生：　いいえ。まだやっていません。今からやります。

「まだ～ていません」がスムーズに言えるようになったところで、学習者同士で同じ練習を行う。

＊レベルｉの学習者の場合は、「～ていません」のテ形に苦労しているようであれば、「いいえ、まだです」で構わない。

ウ　準備した作業計画表を用いて学習者同士でロールプレイを行う。このとき、場面は家族間か職場の同僚とという設定にして、親しい者同士の自然な会話ができることを目的とする。質問を表す「か」を省略した「～ました？」が自然に使えるかどうかに

も注意する。

例　作業計画表を黒板にはり、それぞれの項目に完了・未完了を表す○×を学習者ごとに書き加えてスピーディに行う。

学生A：　洗濯はもう済みましたか？（終わりました？）

学生B：　ええ、終わりましたよ。／まだやってないんですよ。今からやりますから。（後でやりますから。）

＊レベルⅰの学習者の場合は、教授者が「～は、もう済みました？（終わりました？）」と次々に質問し、学習者がそれに対し「はい。／いいえ、まだです。今からやります」と即答できることを目的とする。

＊レベルⅱ、ⅲの学習者には、この後、練習1－3（教科書P 106）を用いて、これまでの練習に注意の要素を加えた流れにして会話練習をさせる。

〔会話－3〕掃除をしながら（2）

行動達成目標		
より効果的な掃除のやり方について、助言を求める行動力をつける。		
知識	住まいの管理に必要な用具や洗剤等の利用法についての知識を広げる。	
表現	① 困難な状況を説明することで、助言を求めることができる。	→ （ここ、ふい）ても（きれいに）ならないんですけど…。
	② 掃除の方法についての意見を理解したり、意見を述べたりすることができる。	→ （ふいた）だけじゃ無理ね。（たわしを使い）ましょうか。

● 指導の前に

最近では、住まいの管理に必要な様々な用具や清掃のための洗剤が市販され、日本人の暮らしもずいぶん便利になってきている。学習者はそうしたいろいろな商品に興味を持ち、そこから日本の生活全般への関心も深まっていくことだろう。しかし、彼らがあふれるような商品の中から必要な物を選び出し、それらを正しく役立てるための知識を身につけることも大切なことである。

ここでの学習は、日本のごく一般的な家庭で使われている清掃用具や洗剤についての知識を身につけながら、日本人がどういう点に気を使って住まいを管理しているかについて理解を深めていくことが主目的であるが、同時に、例えば、薄めて使う洗剤を原液のまま使ってしまったり、家具用の洗剤を食器に使ってしまうというような事態が防止できるように、使用説明書等、書かれたものから必要な情報をつかむための日本語力を

つけるような指導もしたい。

● 準備

① 掃除をするときに便利な用具や洗剤の実物、またはそれに代わる写真（広告やちらしからとると便利である）を用意しておく。

例　たわし・柄付きのたわし・スポンジ・金だわし等、住まい用洗剤・食器用洗剤・クレンザー・排水パイプ用洗浄剤等

② また、こうした商品の用途・使用法が書いてある部分を抜き出したものを用意しておく。

③ 助言を求める練習に用いる、汚れのひどい器具（ガムのこびり付いたくずかご等）や故障している器具等を用意しておく。

● 授業

【1】展開

① 〔会話－3〕の場面を中心となる文を抜き出すことで確認する

教科書を閉じたままで〔会話－3〕の中国語部分のテープを聞かせ、場面をつかませた上で、日本語部分を流し、「ここ、ふいてもきれいにならないんですけど」「たわしを使いましょうか」の二箇所を聞いて正しく書き取らせるようにする。正解を板書した後、説明1・2（教科書P108と109）を参考にして意味を確認させる。

② 〔会話－3〕を通してのロールプレイをする

ア ①の板書を残したまま、学習者に、準備した汚れのひどい物とぞうきんを持たせて、教授者に助言を求めさせる。板書に頼らずに滑らかに言えるようになるまで練習する。

イ 場面を十分につかんだところで、板書の変換部分を消し、他の語彙を用いての応用会話に進む。（練習2－1教科書P 109を参考に）

＊レベルⅠの学習者は、「～てもきれいになりません」でもよい。応用会話練習も語彙を知っているものに限り、文型の定着の方に重点を置くようにする。

③ 試みてもうまくいかない状況を訴える「～ても～（なら）ないんですけど」の文型で助言を求める練習をする

準備した汚れのひどい器具や故障している器具を用いて、学習者に表現を考えさせ、「～ても～ないんですけど」の表現が言えたところで、教授者が助言を与えるなり、代

わってやるなりしてそれに応じるようにする。

例　電池が入っていないテープレコーダーで

学生：　押してもテープが動かないんですが。

先生：　ああ、これね。電池が入ってないんだよ。ほら。

助言を求めるという表現意図が飲み込めたところで、練習1－2（教科書P 108）を用いてパターン練習を行う。

＊レベルｉの学習者に対してはこの練習は行わない。

【2】発展

①　家庭の掃除ではどんな用具や洗剤を使っているかについて話し合う

学習者が実際にどんな用具や洗剤を使っているか、それらをどのように使い分けているか尋ねてみる。教授者が準備したものを示し、それらを知っているか、何に使うか等を尋ねてみるのもよいだろう。そうした「商品知識」を通して、日本の家庭ではどのような点に注意して住まいを管理しているのかについての理解が得られれば望ましい。

②　①で準備した物の用途・使用法が書いてある部分を読み取る練習をする

商品についている用途・使用法が記されている部分から最低限必要な情報を得る訓練をする。

例　まぎらわしいパッケージのシャンプー、リンス、食器用洗剤、住まいの洗剤、衣類の洗剤、漂白剤等を用意して学習者に質問する。

- 何に使いますか。
- ～を洗ってもいいですか。
- 一回にどのくらい使いますか。

＊レベルｉの学習者には、読み取りが困難な場合、どこに着目してそこにどう書いてあれば目的にかなっていると分かるかという形で練習させる必要があるだろう。

③　「～なる」の文型練習をする

復習を兼ねて「～なる」の文型練習をする。練習1－1（教科書P 108）を参考に、初めは、イ形容詞・ナ形容詞・名詞に分けてそれぞれ大量に変換練習を行い、次は三つを一緒にして練習する。

＊レベルｉの学習者は、この練習は省く。

〔会話－4〕掃除をしながら（3）

行動達成目標	
作業を切り上げるときの適切なやり取りができる。	
知識	共同作業時のやり取り（相談しながら作業する）に慣れる。
表現	① 作業を切り上げようという提案の表現が理解できる。 → じゃ、（ここだけやっちゃってお昼にし）ましょうか。
	② どこで作業を切り上げるのかを聞き取ることができる。 → （ここ）だけ（やっ）ちゃって（お昼）にしましょうか。
	③ 同意の表現が適切に使える。 → そうですね。そうしましょう。

● 授業

【1】展開

① 〔会話－4〕の場面を確認する

〔会話－4〕のテープを聞かせ、内容把握を確かめる質問をする。

＊レベルⅱ、ⅲの学習者にはこの後、会話番号3の発話を書き取らせる。正解を板書した後、説明1（教科書P 110）で意味を確認、練習1－1を参考に「やってしまう→やっちゃって」の変換練習を行う。

＊レベルⅰの学習者の場合は、「～てしまう」にこだわらず、「お昼にする」が聞き取れて、その意味が分かればよい。「お昼にしましょうか」「夕御飯にしましょうか」「お茶にしましょうか」等を教授者が発話し、それぞれの意味が理解できるかも確認しておく。

② 〔会話－4〕を通してのロールプレイをする

教授者と学習者との間でロールプレイを行う。時間を尋ねられてそれに答え、掃除を切り上げようと言われて、「そうですね。そうしましょう」が自然に出ればよい。

＊レベルⅱ、ⅲの学習者には、この後、学習者同士で練習をさせる。内容を変化させて応用会話練習を加えてもよい。

例 A： 何時になりました？

B： もう5時です。

A： ああ、もう…。じゃ、窓だけ磨いちゃって夕御飯にしましょうか。

B： そうですね。そうしましょう。

〔会話－5〕掃除を終える

行動達成目標	
掃除用具を後始末するときのやり取りができる。	
知識	共同作業時のやり取り（指示を仰ぐ）に慣れる。
表現	① 用具をどうするか尋ねることができる。→ （掃除機） は （もとに戻し）ますか。 （ぞうきんとバケツ）はどうしましょうか。
	② 上記の質問に対する指示が理解できる。→ いえ、（そのままにし）ておいて。 片付けちゃってください。

● 準備

① 掃除用具数種とロッカーに代わるダンボール箱を用意しておく。

● 授業

【1】展開

① 〔会話－5〕の場面を中心となる文を抜き出すことで確認する

〔会話－5〕のテープを聞かせ、内容把握を確かめる質問をする。「掃除機はもとに戻しますか」と「ぞうきんとバケツはどうしましょうか」が正しく聞き取れているかチェックした後、下線部を抜き出して板書する。

＊レベルⅱ、ⅲの学習者には、「そろそろ～ましょうか」の文型も聞き取らせてみる。これはいろいろな場面で使える表現なので、説明3（教科書P 113）で意味を確認した後、自然なイントネーションで言えるように練習する。

例 • そろそろ終わりにしましょうか。
• そろそろ始めましょうか。
• そろそろ出発しましょうか。

② 掃除用具の後始末に関するやり取りのロールプレイをする

①の板書を残したまま、準備した用具と箱を使って、教授者と学習者の間でロールプレイを行う。教授者は学習者のレベルに応じ、それぞれの用具ごとに「そのままにしておいて」「置いといて」「残しておいて」等、「片付けちゃって」「しまっちゃって」

「持ってっちゃって」「戻してくれる？」等と指示し、学習者に実際に箱にしまうか残しておくかさせることで聞き取りを確かめる。

＊レベルⅰの学習者には、「～はどうしましょうか」のみで練習させる。
＊レベルⅱ、ⅲの学習者には、この後、学習者同士で練習させる。

〔会話－６〕教室の掃除（１）

行動達成目標		
人と協力して作業するときのやり取りが適切にできる。（リーダシップをとる立場の場合）		
知識	共同作業時のやり取り（分担を指示する）に慣れる。	
表現	① 作業の手順や分担を指示することができる。	→ （前の方から掃いていき）ますから、（そのあとモップかけ）てくれますか。
	② 気を付けなければならない点を注意することができる。	→ （よくふい）てくださいね。（汚くなっています）から。

● 指導の前に

〔会話１～５〕は、姑（しゅうと）と掃除をする場面であり、林夫人は指示に従い、助言を仰ぐ立場であった。それはそのまま、学校や職場で、先生や先輩とのやり取りにも応用できるものである。一方、〔会話－６・７〕は、後輩にいろいろと指示を与えながら教室の掃除をする場面であり、いわばリーダーシップをとる立場での発話が中心となる。この違いをよく理解させ、学習の動機付けを行った上で、授業を進めたい。

学校や職場での掃除の分担のシステムや責任に対する考え方については、第２課〔会話－１〕の「指導の前に」（P48－50）を参照のこと。

● 授業

【１】展開

① 〔会話－６〕の場面を中心となる文型を取り出すことで確認する

教科書を閉じたままで〔会話－６〕のテープを聞かせ内容把握を確認する。会話番号１と３が正しく聞き取れているかチェックした後、この二つの文型を抜き出して板書する。

② 「～ますから、～てくれますか」の練習をする

〔会話－１〕の【展開】①と同じパターンで練習する。

＊レベルⅱの学習者の場合は、〔会話－１〕を理解中心の学習、〔会話－６〕をその表現の練習と分けて考えてもよい。
＊レベルⅰの学習者には、この文型が難しすぎるようであれば、「私は～ます。～さん、～てください」で練習させる。
＊レベルⅱ、ⅲの学習者には、相手が後輩でも自分より年配の場合はどういう表現が適当かについても考えさせたい。
＊レベルⅱ、ⅲの学習者には、文型が定着したところで、もう一度教科書の文に戻り、「（～から）～ていきます」を練習させる。練習１－１（教科書Ｐ115）を用いて形の練習を行った後、「～ていく」のニュアンスについて説明し、理解を確かめるため、「～から～ていく」を用いた文を作らせてみる。

例　先生：　（右から左へ書いていくゼスチャー）
　　↓
　　学生：　右の方から書いていきます。
　　先生：　（前の人からプリントを配っていく）
　　↓
　　学生：　前の方の人から配っていきます。

③ 「～てくださいね。～（ています）から」の練習をする

渋のついたカップ、汚れた窓ガラス、ほこりをかぶった器具等を用い相手に前もって注意を与える場面として練習する。学習者にどう発話したらよいか考えさせ、それぞれ意見が出てきたところで、実物を実際に指しながら練習させるようにする。

例　• ここよく洗ってくださいね。汚くなっていますから。
　　• あの窓ガラスよく磨いてくださいね。汚いですから。
　　• その上のところよくふいてくださいね。汚れていますから。

＊レベルⅱ、ⅲの学習者には、この後、練習２－１（教科書Ｐ116）を用いて「～から」が後ろにくる文の練習をさせる。

〔会話－７〕教室の掃除（２）

行動達成目標	
	かけ声を掛け合って共同の作業をするときのやり取りができる。
知識	共同作業時のやり取り（一つのことを一緒に行う）に慣れる。

表現	① 提案の表現を使うことができる。	→ （ちょっと動かして、掃除し）ましょうか。
	② 提案に対する同意の表現ができる。	→ ええ、その方がいいですね。
	③ 共同して作業をするときの掛け声。	→ じゃ、（高橋）さん、（そっち持っ）てください。 → はい、いいですか。いきますよ。

● 授業

【1】展開

① 〔会話－7〕の場面について内容理解の確認をする

② 共同して作業するときの掛け声の練習をする

ロッカー等一人では動かせない物を使い、お互いに掛け声を掛け合って実際に運ぶ。動作に合わせてスムーズに掛け声が出るようになるまで練習する。

例 学生A： じゃ、Bさん、そっち持ってください。

学生B： はい、いいですか。いきますよ。（あっ、ちょっと待ってください。）

学生A： いいですか。降ろしますよ。

学生B： はい、いいですよ。

＊「いきますよ」については、説明1（教科書P 117）で意味を確認しておく。

③ 〔会話－7〕の場面練習をする

会話の流れが分かるようにポイントを板書してから、学習者同士でロールプレイをさせる。

＊レベルⅠの学習者は、この練習は行わない。